

管理番号

62

## 研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	腎移植後の BK ポリオーマウイルス関連腎症とドナー・レシピエントの抗 BK ポリオーマウイルス抗体価に関する研究 (生体腎移植における BK ポリオーマウイルス (BKPyV) 関連腎症の臨床的危険因子の探索的研究)
研究開発期間 (西暦)	2023 年 4 月～2025 年 3 月
研究機関名	秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座
研究責任者職氏名	准教授 齋藤満

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

## 研究の説明

## 1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

ポリオーマウイルス科ポリオーマウイルス属である BK ポリオーマウイルス (BKPyV) は、健常人に感染しても通常は無症状です。10 歳までの 90 %以上に感染が成立し、以後は尿細管上皮に潜伏していますが、免疫抑制を伴う腎移植では日和見感染症として発症し、BKPyV 関連腎症や尿管狭窄などを引き起こす場合があります。BKPyV 関連腎症は腎移植患者の 1-10%に発症するとされ高頻度ではありませんが、一旦 BKPyV 関連腎症を発症すると、約半数がその後短時間で移植腎廃絶に至ると報告されています。また、BKPyV 関連腎症の治療において最も有効な治療は可及的速やかな免疫抑制薬の減量です。当施設の先行研究では、腎移植レシピエントとそのドナーの抗 BKPyV 抗体価を測定することで、腎移植後の BKPyV 関連腎症の発症リスクを予想できる可能性が示唆されています。本研究の目的は、腎移植レシピエントとそのドナーの抗 BKPyV 抗体価と、腎移植後の BKPyV 関連腎症の発症リスクとの関連性を明らかにすることです。本研究によって BKPyV 関連腎症の発症リスクが高いレシピエントを抽出することが出来れば、より効率的なモニタリングが可能となります。このことは BKPyV 関連腎症発症の抑制または早期発見に、ひいては移植腎生着期間の更なる延長へと繋がると期待できます。

## 2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類：検査残余血液（血清）

## 3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液を使用する共同研究機関》 なし

《献血血液を使用しない共同研究機関》

北海道大学大学院医学系研究院 腎泌尿器外科学講座 堀田記世彦、  
札幌北榆病院 泌尿器科 三浦正義、  
弘前大学医学部附属病院 先進血液浄化療法学講座 畠山真吾

## 4 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析： 行いません。 行います。

《研究方法》 腎移植を実施した患者とドナーの保存血清について、それぞれ抗 BKPyV 抗体量を ELISA（発色強度によって抗体量を測定できる方法）を用いて測定し、その抗体価が腎移植後の BKPyV 関連腎症発症リスクと関連しているのか、また

その臨床的意義について既知の臨床的危険因子と比較・検討します。  
測定献血血液（血清）は健常人の対照として抗 BKP<sub>y</sub>V 抗体価を測定します。

5 献血血液の使用への同意の撤回について  
研究に使用される前で、個人の特が定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記 5 を受け付ける方法  
「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号	R050030
------	---------

本研究に関する問い合わせ先

所属	秋田大学大学院医学系研究科 腎泌尿器科学講座
担当者	提箸 隆一郎
電話	018-884-6156
Mail	sagehashi@gipc.akita-u.ac.jp